

戦会記通信

No.16
'68.12.4

東京教育大學 反戰公認

28 回答受諾は勝利への道か？

ハ学校当局は全面的・根序的に自己批判せよ! ハ

11月28日、學校當局は、14日回答をより一層充実化した形で我々の斗いに対する懐柔策動にのり出して來た。「紛争解決」11月14日回答に対する我々の斗いの断手たる拒否に出会つた當局は、回答に「話し合い」の具體性をもたらせることによつて多くの學友に幻想を、そして幻想のみを与えようと画策している。文部省から授業用廈の恫喝を受け、然も「6・10」既成事実化のお墨付を受けた當局は、これまでの「無策の策」を捨てて、何をしても12月授業用廈を実現すべく全力をあげて收拾策動にのりだしたのだ。見よ、28回答をドゴーマンにも當局は、「話し合い」に段階をつけ、全掌斗を文自斗に歪少化し、全學集会→秘勧審議会を唯一の餌とする二とによつて「6・10」を回避しつつ移転を推進しようとしているのだ。

▲日本共产党の「坐掌協議会」路線は屈服への道▼
恩・名せ、フランスのヨリヨリ事々一々敗北也。44

急い起せ、フランス「5月革命」の敗北を。仏共産黨の裏切りは、ドーガーの提起した收拾策動を貫徹せしめ、学生の非妥協的斗争と呼応して起つた一千万労働者の斗争を圧殺し去つたではないか。

決の端にし敵权力と結託しているのだ。そもそも解决の端にしなどい
う説教者の発想に立つ官僚性を見よ。一方では自己の政治的破灭を軍事
的にインシヤイしつつ、他方では「民主化路線」に立つて粉争の以所を大学
当局の伦理に規定し、全体的斗争は大衆団交を否定し去り、代議并閣内の
とりひきへと斗争を落しこめ、熾烈に斗ゆれている斗争を压殺せんとする
反革命的策动を、我々が斗争は断じて許はしない。
我々が斗争をもつて斗争上へか斗いはぬるの日本を、数え始める。

「全学集会」を粉碎せよ！

にせよ「話し合い」によつては「移転」を阻止しえないからこそ、我々は本館パリケードを守りぬいて来たのではないか。全学斗内部に今なお存在する、一部事務局員の日和見主義を踏み越えて、「話し合い路線」が日本共产党と大学当局との結託を粉碎せよ。

実力斗争の思想で武装し、哥クラ。集会を精力的に追求する中で「移動阻止」の道を確認し、星学斗との大衆団が前に当局を屈服せしめよ。
「筑波移動阻止」ノ斗リを、身ニぞ開始せよ。

★ 本日四日目時 G405 討論集会